

平成 2 1 年 9 月

[配布先：全組合員]

市場情報

「日 時」 平成 2 1 年 9 月 1 1 日 (金) 正午
「場 所」 「ラマダホテル大阪」 1 6 F
「出 席」 酒匂委員長他 1 6 名(最終頁参照)
「経 過」

I. 委員長挨拶

市場委員長 酒匂 雅信

向こう2～3年が勝負どころ

電炉製品やスクラップ価格はこのところ上昇しているが、厚板は下げ基調が止まらないようで、これからの展開が非常に心配である。民主党は補正予算の凍結を表明しているが、これにより各地の工事が相次いで止まれば大変なことになる。ゼネコンの受注量は大打撃を受け、今不況はさらに長引き、さらに深刻化することは間違いない。色々な意味で来年4月以降が大きな節目になりそうだ。様子が一変するのではないか。もし不況が今から3～4年も続けば日本経済は自滅の道をたどるだろう。トヨタが7割操業体制に移行する方針を打ち出したように、今後需要が伸びるとは到底考えられないし、量、価格とも右肩下がりになっても伸びる可能性はきわめて少ないと思う。我々シャー業界としては、この変革混迷の時期は中途半端な対応では乗り切れないことを肝に銘じ、向こう2～3年を勝負どころとみて一丸となって頑張りましょう。

II. 各地区の需要動向

北海道

大手ファブの稼働にも陰り

「北海道は梅雨がなく夏は快適な気候」と言われているが、とにかく今年は異常気象。長雨による日照不足に加え、低温で農作物に甚大な被害が懸念されている。8月に入りようやく天候も持ち直し成育の遅れを挽回してきているが、作柄は依然厳しい状況にある。農業立国北海道にとっては天候が景気を大きく左右し、その厳しさはこれから一層深刻化しそうである。企業収益や雇用情勢（有効求人倍率0.32倍）、個人消費の冷え込みも著しく、いまだ景気の底が見えないのが実情である。

【鉄骨】 北海道内の鉄骨需要は、Hグレードを中心とした大手ファブの場合、昨年発注された道央圏のビッグプロジェクトに加え、首都圏の大型物件の継続加工により手持ち工事量は1～4ヶ月と少ないが、現状は比較的安定操業をしている。しかし先行き中・大型物件の需要回復は厳しい状況である。秋以降の量的枯渇感が顕著となり深刻さが増すものと憂慮されている。

一方、M・Rグレードおよび地方ファブは、食料増産体制にむけての農業関連施設や耐震補強関連物件、民間の小型物件はあるが、本来最盛期となるこの時期、手持ち工事量は1～2ヶ月と十分な山積みができていない。先行きの見通しも不透明であり、新規見積もり物件は極端に少ない。鉄骨単価はゼネコン同士の過当競争による低落札の煽りで指値が厳しく苦戦を強いられている。建築統計から推計道内鉄骨需要平成21年1月～7月の累計は6万4900トンで（前年同10万6500トン）前年度比39.1%減。鉄骨の先行きを示す平成21年1～7月累計共同積算数量は6万1257トンで（前年同12万9150トン）で前年度比52.6%減となり、平年に比べても50%強下回っており、明るい見通しは少なく悲観的ムードが漂っている。

【橋梁】 平成21年度橋梁は、ゼロ国・補正予算に続き、景気浮揚に向けて公共投資の大幅増で、2万5500トン、前年度比30%増の見込み通り順調に発注されている。橋梁ファブによって稼働にバラツキがあるものの、比較的安定操業が続いている。また、橋梁の延命・耐震対策の補修や補強材としての落橋防止装置および鋼製床版工事も順調に発注されている

【切板の状況】 昨年後半から続いてきた比較的高水準での安定操業も、道内や首都圏の大型プロジェクトが上期でほぼ完工見込みであり、一部Hグレードファブを中心に大手ファブ

の稼動にも陰りがみえている。民間の中小物件や景気対策としての農業関連施設や耐震補強関連案件、橋梁が発注されたが、全体をカバーするには程遠い。本来最盛期となる夏場以降の新規物件は例年に比べ極端に少なく、年度内の中・大型物件の需要回復も見込めず、量的な枯渇感が顕著になり深刻度が増すものと憂慮されている。

価格については、ゼネコン同士の過当競争による鉄骨価格の値下がりを受け、本州切り板や電炉材切り板、高炉材切り板価格との情報が錯綜、切り板の値引き指値は一層厳しくなってきた。お互い値引き合戦をしても現状の需要量からして大幅な受注増には繋がらないことから、各社ともより慎重に対応している。

北海道の需要構造は土木・建築が中心であり、長年にわたる公共投資の抑制で、ゼネコンをはじめ建設業界は疲弊、今年に入ってHグレードファブ2社、Mグレードファブ2社、建設機械及び各種プラント設備・農業機械製造メーカーなど相次いで経営破綻、シェアリング業界も大きな影響を受けた。さらに与信問題は深刻さを増しており、在庫問題とともに今後一層多難な状況が続きそうである。

(玉造(株)・西村卓也)

東 北

自動車・電機関連の工場建設に期待

東北地方は梅雨明け宣言が無く、8月は雨の日が多く夏の日差しが何処へいったのか秋の気配が感じられる気候です。

東北地方の状況は先月と大きな変わりはありません、依然として仕事量は低迷しています。先日、岩手のファブが倒産し同業のファブ各社は力を落としています。

昨年の後半、仙台駅周辺の再開発や建替え計画の凍結が相次ぎ、急激な仕事量の減に未だ苦しんでいます、その中でセントラル自動車・パナソニックEVエナジーが建設着工され、来年には工場操業が決定されました。セントラル自動車の関連産業の進出も決まり始めていますし、今後、東京エレクトロン、ソマール、トヨタのエンジン工場の建設が予定されておりますが、建設時期が未定である為、経済の早期回復が望まれるところです。

これらの建設に刺激され凍結されている仙台駅周辺のビル再開発にも繋がって欲しいものですが、足元の苦しさは、いつまで続くのか先行きまだまだ不透明であり、中小ゼネコン、ファブの信用不安を抱えながらの操業が続いています。

(J F E 鋼材・庄子悟)

東 京

橋梁、鉄骨とも本格回復は年末近く

< 建材部会年加工量推移 >

	橋梁	鉄骨	その他	計	月AV
04年度	63.5	57.1	20.2	140.8	11.7
05年度	54.0	64.4	20.1	138.5	11.5
06年度	56.0	40.7	22.8	119.5	10.0
07年度	61.6	53.2	25.5	140.3	11.7
08年度	67.2	49.3	23.2	139.7	11.6
対前年	5.6	▲3.9	▲2.3	▲0.6	▲0.1

< 建材部会年加工量推移 >

	橋梁	鉄骨	その他	計	月AV
H20.1Q	15.2	11.8	7.0	34.0	11.3
2Q	18.6	11.0	5.8	35.4	11.8
3Q	17.0	13.3	5.9	36.1	12.0
4Q	16.4	13.2	4.5	34.2	11.4
H21.1Q	12.9	12.3	3.1	28.3	9.4
対全Q	▲3.5	▲0.9	▲1.4	▲5.9	▲2.0
7月	4.7	3.7	1.2	9.7	9.7

1. H20FY1Qの実績

【橋 梁】 一昨年の談合事件影響及びメーカーロールのタイト化によって、ずれ込んでいた物件が、11月以降のロール正常化により4Qまでに全て消化され、H21.4月以降は、本来の入札量並みとなったことに加え、1～3月の入札で関東FAB各社の落札が極端に少なかったことから、加工量は、4千ト/月の低レベルとなった。(入札量H20FY30万ト強→H21FY25～30万ト弱)

【鉄 骨】 建築基準法見直しや金融不況の影響を受け、中小案件は急減したものの、超高層案件は大きな変化なし。但し、鋼材価格の激変や輸入鉄骨起用で、GC/FAB間の交渉がこじれ、発注が遅れており、H21FY上期もやや低調(早急に価格対応したFAB1社のみフル操業)。

【全 体】 橋梁及びその他(産機・自動車等)の大幅減、及び鉄骨の低調を受け、H21FY1Qは久々に10千ト/月を割り込み、稼働率も100%を下回った(94%)。

2. 今後の動向

〔橋 梁〕

- ・今年度の入札量は、補正予算を込みにしても25～30万ト弱と、極めて厳しいレベルが予想されている。(昨年は鋼材発注ベースでは50万ト近くあったと推定)
- ・しかし、政府指導により「当初予算の80%は上期中に発注する」方針であり、8～9月に入札が集中する模様。(鋼材発注ベースでは11月以降か、…)
- ・当然これまで取り負けていた関東FABの巻き返しが予想されるが、我々の仕事に繋がるのは12月以降になる可能性大。
- ・従って、足元から年内は低レベルが続き、年末～年度末にかけて急激に増加する可能性はある。(但し、8/E現在、宮地殿・駒井殿の2Q落札はゼロ)

〔鉄 骨〕

- ・設備投資や中小建築案件の中止により、中小ファブの稼働は惨憺たる状況。しかし、超高層ビル案件には、今のところ大きな計画変更は見られず、Sファブ対象案件は高水準。
- ・しかし、GCによる、海外ファブ(タイ/MCS, 中国/精工PD)起用の動きや、鉄骨価格の揺さぶりにより、発注遅れや発注数量が減少しており、大手ファブの夏場～秋口の山積みも極めて苦しい状況にある。
- ・一方で、下期以降は、海外ファブが手を出せない高級鋼を使用する案件が続いていること(JPター・丸の内再開発・パレスホテル等)、及び鋼材価格(特に電炉製品)。鉄骨価格が急激に下がり、GCに底値感が出始めていることから、下期後半からは本格化する見込み(ファブによっては、1年間はフル操業になるとの見方もある)。従って、我々の仕事も、橋梁同様12月以降に回復する見込み。
- ・全体：橋梁、鉄骨とも夏場～秋口の仕事が薄く、産機・自動車関係に回復の兆しが見られないことから、謠稼働の本格回復は年末近くなる見込み。

(富士鉄鋼センター・井沢純司)

東 京

建産機、深刻な状況変わらず

経済全般には、財政出動の効果や中国需要の回復もあり底を打ったと言われているが、建産機系シャーは急激な落込みから未だ立ち直れない状態が続いている。しかしながら前回の報告時と比較して、素材在庫の減少や需要家の在庫調整の進捗等をみると間違いなく良化しており、わずかではあるが明るさが見え始めたと言える。残念なのは需要家の扱う製品・機種によって、シャー間の明るさにかなりの強弱が見られることである。

建設機械全体の7月出荷は前年比▲65.6%で10ヶ月連続の減少となっている。油圧ショベルは、前年比▲76.3%であり内外とも不振ではあるが、好調な中国需要の影響で9月～10月には概ね世界的な在庫調整にめどが付きそうである。建設用クレーンはどうも年内の回復は見込み薄のようである。他機種より遅れて減産に突入したが、販売はさらに悪化しておりさらなる生産調整を強いられている。来年以降に実販レベルの生産に戻る事を期待したい。大型ショベルやダンプに代表される鉱山機械関係は、昨年の高水準の生産から一転大減産の真只中であるが、東南アジア向けに若干回復の気配が見られるのがせめてもの救いである。下期の改善に期待したい。

金属加工機・鍛圧機械は、製造業全般での設備投資の中止や延期から販売は激減状態を継続している。シャーへの切板発注は破滅的数量となっており、素材在庫も一向に減少せず経営面で重荷となっている。工作機械の受注動向では、非常に低いレベルではあるが1月以降緩やかな回復基調となっている。この数字にすぎないように期待したいものである。

重電分野は、シャーにより若干温度差はあるが、総じて昨年並みの仕事量を確保できているようである。しかしながら円高環境や受注競争の激化から来る変圧器等の受注減、海外製鉄プラント案件の減少もあり、来年以降の加工量が懸念される。原発関連は、年内の仕事量は確保できているがその後は‘13年まで空白期間と見られておりその間をどう埋めていくのか大きな課題ではある。

産機店売部門は超閑散状態が続いており、概ね50%稼働といったところか。引合いは依然乏しく数少ない物件に数社が群がったの競合見積りの結果、価格は採算割れも見られるようである。乱売合戦だけは避けたいものである。

(ニューエイジ・池田啓志)

東 京

疲弊する需要家

浦安地区の現状は、厳しいの一言であり、稼働率が概ね30～50%程度、納期は即日ないしは2～3日程度である。在庫調整については、極厚物を除き、徐々に進んでいる状況。加工量は月を追って減少しており、足元の荷動きはほとんどなく、トラックの姿がさっぱり見えない。量は減り、価格的にも非常に厳しく、経営を著しく圧迫している。また、需要家の疲弊度合いも深刻化し、看過できない状況にあり、我々としては与信問題が大きな懸念材料、課題になっている。

(三ノ橋鋼材・角田善彦)

東 京

弱い者いじめの横行

景気は底を打ち回復しつつあるとの見方も出ているが、その実感は全くなく、マインドは冷え込んだままである。厚板需給は今年に入ってから緩和の一途をたどっており、その間在庫は急増し、春先から本格的な在庫調整を行っているが、まだ過剰である。一方この不況下でまたぞろゼネコンの弱い者いじめが横行し、川下のファブ、シャーは信じられない加工賃で揺さぶられている。ファブの中には適正価格維持派と安値受注派に分かれるが、後者がさらに市場混乱の要因となり、我々が苦しめられている。ファブの受注残も底をつき厳しいと思うが、シャーともども今が踏ん張りどころであると思う。

乱売からは何も生まれない。

(丸東興業・秦弘志)

東 海

出口見えない産機系シャー

東海地区産機系の熔断業者はヒモ付、店先を問わず大部分は6～7月に少しは戻りかけたと思っていた仕事量が、8月になり再び落ち込み出口の見えない状態になってしまいました。

当然の様にほとんどの企業が、雇用調整金をもらい仕事の調整をしていますが、それでも、定時間の仕事を入れるのが難しくなっています。売上や加工量もピーク時の半分以下になり、仕入を止める事により辛うじて資金繰りをしています。ここに来て、いくら加工量が半分とはいえ、在庫調整も進み、そろそろ板の購入を考える企業も出てきました。

ところが現在販売している切板単価からは、たとえ申し込みをしたところで、採算のベースに乗らず、メーカーも熔断業者に対してのこれからの母材単価に対してのはっきりとした

回答もなく、現在の切板単価はフラットバーの切断単価よりも安く、在庫調整の為と言いつづけて売ってきた単価も、そろそろ考えを変えていかななくてはならない時期なのかもしれません。

現在の切断単価が陥没単価なのか？ それともメーカー出し値が切板相場に合わないのか？ そのためには早くメーカーが我々に対しての単価を示して欲しいし、それがヒモ付単価と店売単価があまり解離して欲しくないと思います。

現状の中部圏の厚板市場は、いくら自動車が6～7割生産が回復しても金型や工作機械や設備が出るわけでもなく、とくに自動車産業を中心にやっている三河地区は、大企業は別として中小企業に仕事が回らず、本格的に余信の問題が出てきましたし、比較的堅調だった造船関係の熔断業者も9月から雇用調整金をもらい始めました。又建設機械も相変わらず低調のままで、まったく、明るい兆しがありません。その中での母材単価、切板単価を真剣に考えていかななくてはいけない状況ですが、経営者はついつい工場が止まってしまうという恐怖感から受注を取ってしまっているというのが現状です。

最近、種々なる会合に出席した中で、特約店の会合の中では条鋼の値上をおこなったが、ユーザーが、在庫が無くなってきていて思ったより売れたとか、また、薄板では、ユーザーに近いコイルセンターでは残業が始まったとか、厚板の定尺も申し込みが少なかったため品薄感が出てきたという話も聞きました。

我々も現在の切断量から見る在庫率から言えば、まだまだ在庫が多いですが、各社の切断能力から言えば、在庫は相当減ってきています。

厚板もなにかのキッカケがあれば、ない材料はこの単価では売れないとユーザーに主張する事ができるので、早く単価の主導権をにぎれる様になればよいと思います。

(鈴将鋼材・鈴木康司)

東 海

建 築 物 件 は 相 変 わ ら ず 低 迷

東海地区の建材シヤアの稼働は相変わらず、他地区より低迷している建築物件数量のため、引き続き厳しい状況が続いています。

メーカー系列のシヤアの稼働状況は、橋梁物件の落ち込みが比較的少ない状況が続いているために、メインが橋梁物件のメーカーシヤアは7割操業ほどの工場稼働となっています。

建材物件のウェイトが高いメーカーシヤアでは、仕事の比率が建材7割、橋梁3割であったものが、橋梁物件の量は変わらないのですが、建材物件が減った為に、建材の比率が2割程となってしまう様な状況で、減少した仕事量の対策として休業したり時間短縮したりして調整を行っている状況となっています。

建材を扱っているメーカー系列以外の一般シヤアの稼働は4割から5割稼働といったところで、相変わらず低操業となっていますが、建材の仕事量の落ち込みは産機の落ち込みに比べたらまだましといった状況との事です。

在庫状況は半年から3ヶ月分といったところがほとんどで、歯抜けも出始めてきていますので、申し込みを始めようかという話もありましたが、多くのシヤアは事業所間の調整や市中材の手当てで事足りるようです。

今後の東海地区の建材シヤアの仕事量に関しては、先が読めないといった状況という意見が多かった。

(中部鋼鉄・加藤一修)

大 阪

底が見えない

1. 全般

- (1) 厚板は秋口からの商いに期待していたが、依然、低迷しており、まだ底が見えない状況である。
- (2) 引合いは増えてきているが、なかなか成約には至らず、成約しても短納期、小ロットで手間ばかりかかり、忙しい思いはするものの、縮めてみればたいしたことがないという状況である。
- (3) コイルセンターは厚板と違って4月には在庫調整が終了し、連休明けに続いて先般も値上げを行い上昇 基調である。

- (4) 厚板の在庫は4月をピークに減少しているが、販売が増えていないので在庫率はそれほど落ちてない。7月は6月より、在庫量は減っても在庫率は上昇している。
- ＜4月…13.7万t(245.1%)、6月…12.7万t(214.3%)、
7月…11.5万t(233.6%)＞
- (5) 価格については一時の信じられないような価格は少なくなってきたが、物件によってはメーカーも手をだせないものもまだ散見される。(特に鉄骨関係が多いようである。)
- (6) 市況と高炉価格との飛離は依然として大きく、引き合いは必然的に東鉄価格に引きずられたところが、ベースとなり、ここからどれだけ下げられるかである。(仕事がないだけに無理をすることもある)
- (7) 従って体力勝負の様相を呈している面もあり、今後、与信面ではますます気になるところである。従って 臨休についても増える傾向にある。

＜8月の近畿地区 倒産状況＞・・・東京商工リサーチ

件数 … 370件 (前年同月比 +9.8%) … 14ヶ月連続で前年同月比を上回っている

金額 … 441億円 (〃 -53.1%) … 大型倒産が減り、個人企業が多発している。

2. 需要部門別

(1) 橋梁

①秋口まで好調であった関西FABであるが、今年度は国交省も9月までに80%は発注するにも関わらず、連戦連敗で受注できてないだけに、下期にどれだけの仕事量を確保できるか心配である。

②仕事量が減少しているために一つの物件に数多くのFABが入札し、価格の減少を招いていることと政権交代により、公共投資がどのようになってゆくのか？

(2) 鉄骨

①昨年度後半より、大半が延期もしくは中止となっており、今年度は壊滅状態と言っても良いほどであるが、来年度になると(一部では既に動き出しているが)大型物件もでてくるようである。(アベノ近鉄、フェスティバル、大阪中央郵便局等)

②足元では数少ない物件に競争が激しく、メーカーもついていけない価格がでている。

＜7月の建築着工面積＞

S C … 354.8万㎡ (前年同月比 -40.7%)

SRC … 36.1万㎡ (〃 -8.3%)
 鉄骨需要量 … 約37万t (〃 -25万t)
 近畿/非住宅… 43.8万㎡ (〃 -63.9%)、
 746.7億円 (〃 -82.8%)

(3) 建機

①日本建設機械工業会によると今年度が底で、2010年度から徐々に回復していくとしているが、在庫調整の進み具合がメーカーによって違い、取引相手によっては差が出てきている。

②しかしながら、回復するとはいうものの、10年度の出荷額はピーク時の約半分なのであまり期待できないのではないかと

、09年度1兆1370億円(前年度比-42%)、10年度1兆3272億円(〃 +17%)

(4) 造船

①仕事量はまだ2~3年持つてはいるものの、その先の商談がストップしていることから、建造もスローダウンしており、量的には減少している。

(シーヤリング工場・佐々木泰司)

(株)玉造・棚橋浩司)

九 州

『生き残る』唯一の道

九州地区の厚板シヤアの業況は、昨年12月以降悪化の一途であったが、4、5月を底に加工量実績は増となった。

しかしまったく実感はなく、依然として厳しい環境が続いており熔断業者は、塗炭の苦しみにあることに変わりはない。

これは、九州の厚板熔断需要が、本年4月の大底13千トン/月が、現状17千トン/月程度に上がっただけで前年同月比では△40%と依然低水準であること。全国一安い切板価格が定着してしまい上伸力もまったくなく、競争が起こると更に信じ難い価格が出でしまう状況にある為である。

前回(3ヶ月前)に期待した『九州の良識』は理想でしかなく、現実は何も変わっていないのが実情。また先々においても九州の厚板熔断に関する環境に明るさは見えず長いトンネルはまだ続いている。

〔建 築〕 足下は、建材系指定シヤーには、継続案件があったが、それも上期までで先に案件が少なく下期の受注量に確保にやつきになっているが、魚が泳いでいないので、いかんともし難い状況。

一般シヤーは更に厳しく、その日暮らし状態。

建築着工統計推移も悲観的で、非住宅着工床面積は、平成21年度1Q(4～6月)で、38万㎡で前年同比△33% S+SRC造の着工面積費では、同比△44%減であり、鋼材使用量も全体で3万t/月(△44%)と同様の落ちとなっている。案件は先細りであり先々は更に弱いとみられ戦々恐々の状況。

確定案件： 熊本駅前再開発(S2千トン)、ハーミットビル(S5千トン)

九州きのこセンター(S2千トン)

博多郵便局機能移転(S1.4千トン)

計画案件： 那覇おもろまち一丁目土地利用事業(S7千トン)

鹿児島中央駅11番街区(S3千トン)

熊本合同庁舎(S4千トン)、

渡辺通2丁目再整備(S4千トン)

福岡赤十字病院(S4千トン)

〔橋 梁〕 九州の橋梁ファブの受注状況は、ぱっとせず、造船メーカー一社を除き、受注が進んでない。

8月の落札結果がまだ判明していないところがあり期待しているが、全体としてあまり期待できない状況にある。

〔自動車〕 九州の自動車生産は、在庫調整完了しエコ減税効果もあり生産回復してきた。本年度2Q(7～9月)は前年度同期比81%であるが、前期比では15%UPとなった。

下期は更に回復を見込み、前年比の30%UPを計画しており、前年度比では97%となる見込み。

〔造 船〕 九州地区の平成21年度1Q(4～6月)建造量(竣工ベース)は約1,350千総トンと推定されほぼ昨年並みの建造を続けている。

ただ新規受注は大幅減となっており、手持ち工事量も減(約12,000千総トン)している。

今後各造船所は、明確にピッチダウンに入り手持ち残で回復を待つ姿勢を鮮明にいていくと思われる。

＊ 結 語 …… 平成21年度・1Q(4～6月)の鋳工業生産指数は、前期比15.7%UPの83.3(2005年=100)と6期ぶりにプラスとなっている。

急上昇に寄与したのは、自動車関連と電子部品・デバイス分野のみであり、厚板に関連する指数は、非住宅着工床面積前年同期比△33%と3期連続の大幅減、新規住宅着工戸数も同△34%と2期連続大幅減。

また日銀福岡支店による九州の生産営業設備DIは、+29ポイントと変化無く大幅な過剰を感じる状態で当然、2009年度の設備投資計画は、全産業で前年比△23%と設備投資による需要もまったく期待できない。

公共投資も九州新幹線鹿児島ルート関連の工事の終了にともない4～6月期は同△5.3%となっており、総じて厚板の関連は、回復にまったく無縁といえる状態にある。

斯く状況が、当面続くと思われ需要面の期待が出来ない以上、各社の自助努力による大幅コストダウンと、不毛な競争による負の連鎖を断ち切ることが、『生き残る』唯一の道と思われる。

(豊鋼材工業・鳴津邦夫)

Ⅲ. 高木理事長の感想

各地区からのご報告の通り、情勢は3か月前とあまり変わらないが、引き続き業況は厳しく、先行きの展望が全く見えない状況にある。本日、私からは業界共通の課題として2点申し上げたい。

一つは、在庫調整の問題。4月以降急ピッチで調整に取り組み、ピーク比約10万トン削減されたが、それ以上に販売が減少しているため、在庫率は思ったほど下がらず、特に地方が非常に高い。早く2か月を切るところまで行かないと、マーケットの地合いは良くならない。需要との見合いで考えなければならないが、在庫量35万トン～38万トン程度が一応のメドではないかと思う。

2点目は、品質証明問題。約1年半にわたり当組合が取り組んできた品質証明問題（トレイサビリティ）は、ガイドラインの原案が7月にできるなど、成果が出てきている。この基本概念は、①切板のトレイサビリティ責任はシャーが負う。②従来の裏書ミルシートから「原品証明書」のみの方式に切り替える。③発生コストは、ゼネコン、ファブ、シャー等関連業界が応分の負担をする。などである。当組合は過去2回、アンケート調査等により本件に関する組合員の意見を聴取・集約し上部委員会に具申した。当方の意見は大方受け入れた形となったが、肝心のファブ業界が具体的検討や周知活動をほとんど行っていない状況で、これが当面の問題となっている。年内には成案が固まる予定であるが、このガイドラインを「業界の標準（スタンダード）」として適用してゆく必要があるので、組合員各社のご理解、ご協力を是非お願いしたい。

≡ 出席者 一覧 ≡ （順不同敬称略）

酒 匂 委 員 長

（ゲスト）高 木 理事長

北海道 西 村 （玉 造 株）

東 京 秦 （丸 東 興 業）

池 田 （ニューエイジ）

井 沢 （富士鉄鋼センター）

角 田 （三ノ橋鋼材）

東 海 鈴 木 (鈴 将 鋼 材)
加 藤 (中 部 鋼 板)
大 阪 佐々木 (シーヤリング工場)
棚 橋 (株 玉 造)
(ゲスト)木 村 (日鉄神鋼シャーリング)
(ゲスト)山 崎 (山崎シャーリング)
(ゲスト)米 原 (ダイコースチール)
九 州 嶋 津 (豊 鋼 材 工 業)
事務局 柘 野

IV. 次回開催予定

第143回市場委員会

平成21年12月11日(金) 正午～

於 名古屋